朽木氏の威厳を伝える旧興聖寺跡

興聖寺のはじまり

現在、朽木岩瀬にある興聖寺の起源となる旧興聖寺跡は朽木の上柏集落の南方に位置する指月谷に所在しています。林道を登ると、山の斜面を削り造られた平坦面や墓石などが見て取れ、今もなおその名残をとどめています。

「興聖寺年譜」によると、近江源氏として有名な佐々木信綱が承久の乱で活躍し、その恩賞として朽木の地頭の職を得たとされています。嘉禎3年（1237年）、信綱は曹洞宗の開祖道元禅師より、承久の乱で戦死した一族を供養するため寺の建立を勧められました。これが興聖寺の始まりとされています。そして仁治元年（1240年）には、道元が寺院を開いた京都深草の景色に似た上柏の指月谷に七堂伽藍といわれる仏堂・法堂（本堂）などをはじめとする各施設が建設され、前身の旧興聖寺が完成したとされています。

興聖寺の役割

佐々木一族は地名を家名とし、「朽木家」と名乗るようになります。朽木家は26代領主朽木之綱のときに明治維新を迎えるまで、実に鎌倉・室町・江戸の各時代、約600年間に渡って朽木を治めることとなりました。

その中で興聖寺は、「朽木文書」によると、15世紀後半以降の土地の買主の役割を朽木家に代わって担っていたとされています。このことから中世の興聖寺は朽木家の菩提寺としての保護を受ける一方、土地の管理等を行う役割としても機能していたと考えられます。

朽木家墓所

指月谷の林道を進んでいくと旧興聖寺跡の入り口にさしかかり、最初に朽木家の重臣や一族が眠る家中墓が見られます。その奥には七堂伽藍といわれる建造物の跡と思われる平坦地があり、朽木家墓所はさらにその奥、この平坦地の石段を登ったところにひっそりとたたずんでいます。

墓所には江戸時代の朽木家当主16代元綱～20代周綱・22代朝綱の墓と、いくつかの五輪塔と石灯籠が並んでいます。墓石の特徴や墓石を囲む石列からは、当時、朽木を治めていた領主の埋葬文化と、かつての寺の威厳を感じることができます。

問文化財課 ☎（32）4467

朽木家墓所のようす

収蔵資料整理のお知らせ

文化財課では、市内6か所に収蔵している民具の整理作業を進めています。作業では、経年劣化や腐食、破損により修復や復元が困難で文化財的価値を失っているものや、時代的に新しく、歴史的価値を有していないものを主に整理、処分していくこととなります。限りある収蔵スペースで、これからも大切な資料をより多く後世に伝えるために、必要な作業となります。

皆さんのご理解とご協力をお願いします。

編集雑感

皆さんは日頃体を動かしていますか？ 今回、表紙でも紹介している「FAIRY TRAIL」の取材に行ってきました。「FAIRY TRAIL」は、最長60km・標高差計4000mもアップダウンのある朽木山中を走り回る過酷な競技にもかかわらず、参加された皆さんは本当に楽しそうにコースを走り、カメラを向けると笑顔やポーズで応えてくれました。楽しそうに走る参加者の姿を見ていると、「僕も走れるかもしれない」と錯覚しそうになりますが、いきなり山道は難しそうなので軽い運動から挑戦してみます。（H）

広報たかしま
平成30年 7月号 No.222
発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740（25）8000㈹
http://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用。